

速報第3993号 R7.9.24発行 総務課 扱	道議会における質疑・質問及び答弁要旨	7年・3定 一般質問 9月24日	質問者	丸山 はるみ 議員 日本共産党 (小樽市)
質 疑 ・ 質 問		答 弁		担 当 課
<p>一 戦後80年と平和の取組等について</p> <p>(一) 平和施策の必要性和取組について</p> <p>本年は、太平洋戦争終戦から80年の節目の年です。知事は毎年の北海道戦没者追悼式の式辞で「戦争の惨禍を二度と繰り返さない」「記憶を風化させることなく、次の世代に伝えていくことは、私たちの使命です」と述べていますが、その言葉を具現化する取組の必要性を知事はどう認識し、取り組んできたのでしょうか。</p> <p>同様に、平和教育の必要性和これまでの取組について、教育長に伺います。</p> <p>(二) 戦争の悲惨さと歴史の継承に向けた取組について</p> <p>戦争の記憶を次世代に伝えていく上で大切なことの一つに、アイヌ民族と戦争の被害の歴史があります。</p> <p>同化政策の下、日本兵として徴兵されたアイヌ民族は、アイヌであるが故に軍隊の中でも様々な差別を受け、アイヌであるが故に、和人が行かない危険な最前線に送り込まれたと遺族らが証言しています。こうした事実は、公式に記録として取りまとめられておらず、歴史的事実の風化が懸念されますが、知事はこの歴史的事実をどのように認識しているのでしょうか。</p> <p>道としてアイヌ民族への差別・戦争被害に関する資料をまとめ、歴史的事実を次世代に繋げていく取組を、知事の政治姿勢として明確に打ち出すべきではないでしょうか。併せて知事の見解を伺います。</p> <p>また、戦争体験者が極めて少なくなる中、戦争の悲惨さの記憶を次世代に引き継ぐことは、今を生きる私たちの責務であり、これまで以上に取組を強める必要があります。どう取り組むのか、知事及び教育長に伺います。</p> <p>(再質問)</p> <p>(一) -再 平和施策の必要性和取組について</p> <p>時事通信が行った「戦争に関する若者100人アンケート」によると、広島・長崎原爆投下日を知らないとの回答が過半数近くに上っています。戦争や平和への関心が薄れている傾向が明らかとなりました。</p> <p>知事及び教育長は、戦争に関する風化が進んでいる現状に対する危機感をどのように感じているのか、伺います。</p> <p>(二) -再 戦争の悲惨さと歴史の継承に向けた取組について</p> <p>戦争の記憶の風化が進む中、アイヌ民族の戦争被害や、戦争と</p>		<p>(教育部長)</p> <p>平和に関する教育についてであります。戦争が未曾有の惨禍をもたらしたことを理解し、戦争の記憶を、次の世代に引き継ぎ二度と繰り返さないようにするためには、学校教育において、平和で民主的な社会や国際協調、国際平和に努めることの大切さについて指導することが重要です。</p> <p>このため、学習指導要領に基づき、例えば、小・中学校等では、社会科において、我が国が平和な世界の実現のために国際連合の一員としての重要な役割を果たしていること、高等学校では、歴史総合や公共において、平和な社会の実現に向けた国際協力など、国際平和の実現に努めることの大切さについて理解を深める学習に取り組んでいるところでございます。</p> <p>(教育部長)</p> <p>戦争の記憶を伝えていく取組などについてありますが、本道においては、児童生徒が、社会科などの学習における戦争体験者などを学校に招いた体験学習や、見学旅行等での戦跡や平和のモニュメント、資料館等の見学を通して、戦時下の国民が大きな被害を受けたことを理解し、平和な生活を築くことの大切さについて考える取組を行っている学校もみられるところでございます。</p> <p>道教委としては、こうした児童生徒に戦争の記憶を伝える実践について、教育課程に関する各種研修会等を通じて周知するなどして、本道の未来を担う児童生徒が、平和で民主的な国家及び社会の形成者としての資質・能力の基礎を培うことができるよう、取り組んでまいります。</p> <p>(教育部長)</p> <p>戦争に関する認識についてであります。現在、世界では争いが絶えない憂慮すべき状況が続いていることから、戦争が未曾有の惨禍をもたらしたことを理解し、戦争の記憶を風化させることなく、次の世代に引き継いでいくことは重要であり、学校教育においては、学習指導要領に基づき、平和で民主的な社会や国際平和に努めることの大切さ等について、指導することが必要であると考えております。</p> <p>(教育部長)</p> <p>戦争の記憶を伝える取組などについてありますが、</p>		<p>義務教育課 (高校教育課)</p> <p>義務教育課 (高校教育課)</p> <p>義務教育課 (高校教育課)</p> <p>義務教育課 (高校教育課)</p>

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>差別の実態については記録もなく、先ほど答弁のあった冊子にも記載はありません。戦争の被害や差別の歴史は掘り起こさなければ埋もれたままになります。戦争の惨禍に対する反省とともに、次世代に継承することが大切で、必要です。</p> <p>知事は「記憶を風化させることなく、次世代に伝えていく」と毎年戦没者追悼式で述べてきましたが、知事の言葉とは裏腹に具体的な取り組みがこれまで追悼式以外なかったことを重く受け止めるべきです。</p> <p>アイヌに限らず戦争の記憶を残すことは重要との答弁がありました。とりわけ若い世代は、戦争の悲惨さや体験に触れる機会が少ないです。ここに思い切って取り組まない限り、戦争の記憶の風化はさらに加速します。これまでほとんど取り組まれてこなかったことを省み、戦争の記憶や平和の尊さを若い世代に引き継ぐために抜本的に取り組みを強化するべきです。知事及び教育長の見解を伺います。</p>	<p>戦争の記憶を風化させることなく、次の世代に伝えていくことは重要であり、道教委といたしましては、戦時下の国民が大きな被害を受けたことなど、児童生徒に戦争の記憶を伝える実践が各学校の実情に応じて取り組まれるよう、各種研修会等を通じて周知するなどして、戦争の記憶を次の世代に引き継いでいけるよう取り組んでまいります。</p>	